

令和4年度富山県美術館運営委員会 議事抄録

日時: 令和4年11月4日(金) 14:00～15:30

場所: 富山県美術館3階ホール

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

- ① 展覧会事業について
- ② TAD ギャラリーについて
- ③ 教育・普及活動について
- ④ 広報等について

(2) 意見交換

今後の富山県美術館の運営について（意見交換）

4 閉会

主な意見要旨

【A委員】

- ・美術館で開催している富山県美術連合会作家展は、各連盟ともベテラン作家を選出しており美連全体で取り組んでいる。今後も継続して開催を。
- ・「先生のための鑑賞講座」など学校の先生方を交えた活動が興味深い。先生方を交えた活動を深めると、美術に関わる先生方が増え、富山県の美術に関する取組みがより進むのではないかな。

【B委員】

- ・大変力のこもった展覧会を企画している。特にミロ展は、コロナや国際事情、輸送費高騰などで海外から作品を持ってくるのが困難な中、主要な作品は外さず、また瀧口修造関係など富山県美術館のコレクションを生かした内容で、良かったと思う。
- ・コロナ影響でお客様が来館できない中、いかに様々なものを動画配信するかは各地の美術館の課題。富山県美術館は、有名ユーチューバーが出演する動画もあり、動画を見てもらうきっかけづくりとして良い。一方、他館の課題でもあるが、学芸員のトーク等は視聴数が少なく、もっと活用し視聴してもらえばよい。

【C委員】

- ・3階映像コーナーは、コレクション展示室の出口から少し離れており、もう少し認知されるとよい。ゆっくり映像を視聴できるのでもったいないと思った。

【D委員】

- ・友の会は、コロナで活動を控えていたが、会員の要望を受けて行事を久しぶりに実施した。今後も会への協力をお願いしたい。
- ・アトリエは、参加するお客様に大変喜ばれ、ボランティアもやりがいを感じられる。家族連れも多く、小さい子供が展覧会に行かなくても美術館に親しむ最初の一步としてとても良い。
- ・旅行中のお客様と話をする、以前は「スタバのついでに」などだったが、最近は美術館を目的地としている方が多く、美術館が富山のメインの観光地の一つになってきたことを実感する。
- ・コロナ禍であっても富山にいながら様々な作品を見られたのは大変ありがたい。美術館のコレクションが好きなので、大規模なコレクション展があるとうれしい。

【E委員】

- ・経営者や、ものづくりの最前線の人たちにとって、クリエイティブな感覚を磨くことはとても大事で、社会人教育における美術館の存在は大きい。各経済団体では様々な文化に関する地域貢献を進めており、経済界と美術館の更なる連携をお願いしたい。
- ・ひよこツアー等の教育プログラムがあることは素晴らしい。子育て環境は保育園等だけでなくどんな雰囲気の中で育てるかも大事。文化的な香りがあることは重要で、ベビーカーを押したママたちが美術館にたたずむおしゃれな雰囲気は、素敵なことに思われるのでは。経済界とうまく連携して、UIJ ターン促進につながるとよい。
- ・インバウンドも相当戻りつつある。発信力のある留学生に、美術館に触れてもらい、発信してもらうことも考えられる。

【F委員】

- ・富山県美術館は、子供と屋上の遊具に遊びに来て館内を一緒に見て回ることができ、子供に文化や美術を伝えることができる良い施設。
- ・美術館は、その町の文化や歴史を伝える一翼を担っており、旅行の目的地になることができる。例えば新幹線敦賀延伸にあわせて北陸3県合同で美術館を活用した仕掛けをするなど、全国的、世界的にもっとPRすればよい。
- ・現代作家は作品の発表機会を探しており、そのような作家にチャンスを与えてほしい。金沢21世紀美術館に行く若者は、現代美術に魅了を感じているとも聞く。幅広い年代の方たちが利用する美術館になってほしい。

【G委員】

- ・いつも素晴らしいコレクションの展示があり、楽しみにしている方が多い。美術館の発信する努力の賜物。
- ・富岩運河環水公園にも、親子連れや若者など様々な方が遊びにきており、公園とコラボする形で美術館へくる流れがあればよい。富山駅や中心市街地の様々なイベントとのコラボも美術館の関心が高まるのでは。
- ・小さいときから美術品を目にする経験が子どもたちの心を豊かにしていくと思いますので、小中学生等の県内研修で美術館に来てもらうのもよい。

【H委員】

- ・開館時に、児童が作家の指導で作品を制作し美術館に展示したが、大変良い思い出になった。子どもたちが参加できる企画は、美術館にまた足を運ぶきっかけになる。
- ・学校の先生向けにも、コロナ前は小学校教育研究会が美術館でワークショップを開催した。コロナが収まれば、またそうした取り組みも増えるのではないかな。
- ・展覧会で撮影可能だったミロやモネの作品を携帯で撮影し、時々見てよい思い出になっている。教育普及活動や展示の様々な取組みで、日本中、世界中の人が楽しめるような美術館になるとよい。

【I委員】

- ・立山連峰の絶景や「映えスポット」の発信など、国内外に固定ファン（推し）を増やす取り組みを。
- ・教員向けの教育普及活動について、教員は毎回研修会に出席することができないので、Youtubeの活用やDX化を行えば、教員の大きなヒントになると思う。
- ・富山県美術館は世界的なジョルジュ・ルオーの版画のコレクションを持っているので、ぜひコレクション展での活用を。私の友人でもジョルジュ・ルオーを見たいという人が何人もいる。
- ・瀧口修造の部屋は、非常にユニークで、まるで「おもちゃ箱」のようだと思う。子どもたちが展示のピー玉を見て「かわいい」というが、多分、瀧口も、子どものような感性で見ていたのではないかな。そうした新鮮な感性が一番の大事なところではないかなと思う。「オブジェ」というと難しくなってしまうので、表示は難しいと思うが、少し見せ方の工夫があるとうれしい。

【生活環境部長】

- ・活発なご意見に感謝申しあげる。県の組織として、予算の確保にあたり、頂いた意見をベースに施策を検討することが必要。現在、文化振興計画を作成中でもあり、3県連携した取り組みや、外に出ていくやり方なども文化行政という観点で進めていきたい。

【館長】

- ・非常にたくさんのご意見を頂いた。
- ・共通して「子ども」というキーワードがあった。この四月に着任して思ったのは、ベビーカーを押して来られる親子連れが多く、子供の声が心地よく聞こえる美術館だと実感している。また、美術館に来られる皆さんは、和やかな優しい顔でいらっしゃる。そういった場所であり続けたいと思っている。
- ・頂いた意見を反映させて、しっかりと運営していきたい。

委員会後に寄せられた意見要旨

【J委員】

- ・企画展は、「世界・日本・郷土の3つの視点を取り入れた近現代の美術」「デザインの視点」「学校教育との連携」の基本方針に沿い、バランスよく構成されている。
- ・公立美術館の課題の一つがコレクションの活用。R3のトライアログ展は3館連携の好企画で、このような取組みを今後行うことができれば、地域間の結びつきや美術館の交流も促進されると思う。
- ・コレクション展について、今の時代幅広い世代に最もアピールできる領域であるデザインを核としていることは富山県美術館の強み。良質な近現代美術コレクションと、瀧口修造及びシモン・ゴールドベルク等の個性的なコレクションを組み合わせ、見る者を飽きさせない展示が行われている。各学芸員の専門性と視点を活かした魅力的な展示を今後も期待。
- ・教育普及活動は、様々な年齢層を対象とした多彩な企画が行われている。将来の「アートラバー」を育てることにつながっていると思う。
- ・広報印刷物にデザイナーを起用していることも注目される。美術館イメージの統一、アイデンティティの醸成が図られ、非常に有意義。

【K委員】

- ・バーチャルミュージアムは、大変リアルに閲覧できた。デジタルテクノロジーの活用により、美術館に出向くことができない多くの人へ文化の価値が届くことを実感した。